

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 薬学科 4 年次生 米田 杏寿美

1. はじめに

この度国際交流基金の助成を受けて平成 29 年 3 月 12 日から 3 月 20 日の期間にフィリピンの NGO でインターンシップをしましたので報告致します。滞在中はネグロス島のシライ市にある国際協力研修センターにて午前中に個人英語レッスン、午後にネグロス島内各地でインターンシップ活動をしました。

昨今めまぐるしいグローバル化が進む中、どれだけ異国の地に適応できるか自身の力量を試すべく、また語学力の向上を目指し、今回参加を決意しました。フィリピンを選んだのは公用語が英語で、アジア各国の中で一番英語が一般的に使われている国だということ、太平洋戦争時に戦争状態にあったにも関わらず良きパートナーとなっている背景を覗きたいということ、さらに主に環境活動を中心とした NGO 団体の国際協力に大変興味を持ったためです。

2. 活動内容

午前 50 分授業が 4 コマあり、3 コマはマンツーマンレッスン、最後の 1 コマは午後からの活動に向けての準備の時間に充てられました。毎日 2 コマ交代で先生が入れ替わりました。初日にペーパーテストを行い、理解度にあったテキストが決まりました。テキストは午後からの活動とも関連しており、主に宗教や人種問題といった文化についてと環境問題に焦点をあてた内容構成となっていました。基本的にテキストに沿って授業は進められますが、私はスピーキングの強化を図りたかったためその旨を伝え、スピーキングを多く取り入れてもらい、また発音矯正もしてもらいました。日によっては同じプログラムに参加していた 5 名とのグループレッスンもあり、ディベートや job interview、レクリエーション等といったこともしました。

午後は、参加者と共に、毎日異なる活動をしました。小学 5 年生に向けて、ごみ問題について教育し、折り紙のデモンストレーションを行い日本文化に慣れ親しんでもらう日もあれば、senior high school で学生たちと交流したり、盆踊りを一緒に踊ったり、日本の高校生の一日の生活についてスキットをして見てもらったりする日もあり、また別の日にはダイケアセンターで幼稚園児と交流(こいのぼりについて説明、coloring activity 等)し、一緒になってレクリエーションを楽しみました。また、マングローブの植林や山間部での植林をした日もありました。私が参加した NGO は、1997 年に活動を開始し、2015 年に類型 100 万本の植樹を達成したマングローブ林や熱帯高地林の植樹事業を行っている環境 NGO で、常に現地の行政と大学、地域コミュニティと共同作

業を行っています。マングローブは植えるだけでは育たず、大きく成長するのは1割程度です。そのため、この活動を継続していて、2025年までに200万本を目指し活動をしています。一方植林では、実のなる木を植えます。森の再生化と共に現地の人たちが実った果実を食べることができるからです。Planting活動は自然の雄大さに圧倒されました。



3. ホームステイ

今回の活動中は研修センターにて参加者との共同生活をしていましたが2日間だけ Patag 村に滞在、プチホームステイも経験しました。Patag 村は緑に囲まれていて空気も澄んでいて、標高が高いため少し涼しく新鮮で、綺麗でした。また観光にも連れて行ってもらいました。Pulang Tubig Waterfall へ足を伸ばしたり、カラバオと戯れたり、闘鶏も見ることができました。ホームステイ先のご家庭はフィリピンで受賞経歴のある農家で、広い敷地の畑、農場を見させてもらいました。日本神社もありました。WWIIで日本に侵攻されていたシライ市はネグロス島で最後まで日本兵が残っていた場所ですが、フィリピンで信仰者の多いカトリックの教会を守った土井純一郎さんという方の遺骨がここにあります。Patag村での生活は、共同で水を使用するため水源は流したまま、洗濯は盥で手洗い、お風呂という概念はなく水をためたバケツからかけ流して洗い、調理はガスがないため薪をくべ、夜は部屋に電気がないため灯りを用意してもらう、といった現地の習慣に驚かされるもとても貴重な経験ができました。



4. 最後に

この活動で現地の人と関わっていく中で、英語だけでなくネグロス島の言語であるイロンゴ語も少し教えてもらいながらコミュニケーションをとりました。英語と日本語、そしてイロンゴ語が入り混じっていることが面白く、この先言語をもっと勉強してコミュニケーションを楽しみたいと感じるようになりました。活動ではある程度の語学力は必要になりますが、インターンシップで充実した時間を過ごすためには積極性と社交性が欠かせないと思いました。単語を並べるだけでも、文法通りでなくても、発音が違って、とにかく話すこと、大事なことは相手に伝えようとする気持ちだと実感しました。語学だけではない伝える意思こそが大事、という本当のコミュニケーション能力を学べました。

本当に毎日が充実していて9日間があっという間に過ぎ去ってしまいました。色々な人達と一緒に活動するため沢山の出会いがありました。出会った先々での会話から沢山の刺激を受けました。また、異文化や国際協力に興味があると改めて見つめなおすこともできました。国際協力というと途上国に援助・支援をすることだと思っていましたが、支援することに変わりはなくとも、現地の人達と、目標に向け一緒に考えながら活動していくことが大切だと考えるようになりました。このインターンシップでさらに海外の魅力を知れたと共に、海外で働く大変さも味わうことができました。海外に来てしまえば、自分の目で自分にできることを確かめることができます。そのことを試してみるのがインターンシップであり、このような貴重な経験ができたのも国際交流基金助成事業の協力があったことだと感謝しております。本当にありがとうございました。